

【参考資料Ⅰ】

# 教員特殊業務手当 質疑応答集

## ○教員特殊勤務手当質疑応答集

### 1 特殊勤務手当条例第26条第1項第1号（非常災害緊急業務）

質 問	回 答
<p>（特殊勤務手当条例第26条第1項第1号イ関係）</p> <p>1. 人事委員会規則7-2（特殊勤務手当）（以下「規則7-2」という。）第23条第3項の「災害直後の復旧の業務でその日において緊急に処理することを必要とするもの」には、たとえば校舎の一部が木曜日に火災で消失し、次の土曜日又は日曜日にその後の処理のため業務に従事した場合が含まれるか。</p> <p>2. 台風襲来に備えて学校内で待機した場合、当該待機は特殊勤務手当条例第26条第1項第1号イに該当するか。</p> <p>3. 一般住民に対する炊出し、給水、救護の業務又は一般民家に対する家屋補修等の業務に従事した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第1号イに該当するか。</p> <p>（特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ロ関係）</p> <p>4. 登下校時の児童が交通事故にあった場合の緊急業務は、特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ロに該当するか。また、日曜日に自宅附近で自校の児童の交通事故に遭遇し、その旨を校長に連絡し、救急業務に従事した場合はどうか。</p> <p>5. 授業中児童が負傷し、応急処置後病院に送り込み、当該児童に付添った場合、その付添は特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ロの救急の業務に該当するか。</p>	<p>1. 木曜日又は金曜日に当該業務を行わなかったことについての正当な理由があれば含まれる。</p> <p>2. 台風襲来の予測が妥当なものであり、かつ実際に相当程度の防災業務に従事した場合には、台風が襲来しなくても該当すると解する。なお、上記に該当せず、単なる待機程度（宿日直勤務程度）のものであった場合には、該当しない。</p> <p>3. 学校管理下において行われた業務ではないので該当しない。</p> <p>4. 当該教員が公務として行った場合は該当する。</p> <p>5. 学校管理下において行われた児童に対する緊急の業務である場合は該当する。</p>

質 問	回 答
<p>6. 特別支援学校の小学部又は中学部の教員が、当該学校の高等部の生徒の負傷、疾病等に伴う救急の業務に従事した場合、当該業務は、特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ロに該当するか。</p> <p>(特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ハ関係)</p> <p>7. 卒業式を妨害するために体育館の窓ガラスを割ろうとしている生徒に対し、それを防止するための卒業式前日の説得等の業務は、特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ハに該当するか。</p> <p>8. 祭等における定期的な見廻りは、特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ハに該当しないと解するがどうか。</p> <p>9. 日曜日等に自校の児童が家出した旨の連絡をうけ、その旨を校長に連絡するとともに、その捜索に従事した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第1号ハに該当するか。</p>	<p>6. 該当する。</p> <p>7. 当該業務が緊急の業務である場合は該当する。</p> <p>8. 該当しない。</p> <p>9. 当該教員が公務として行った場合は該当する。</p>

## 2 特殊勤務手当条例第26条第1項第2号（修学旅行等引率）

質 問	回 答
<p>1. 林間学校等が自校の施設を利用して実施された場合であっても特殊勤務手当条例第26条第1項第2号に該当するか。</p> <p>2. 本校から比較的近い場所で行われている移動教室で、昼間は本校の授業に従事し、夕方から朝にかけて移動教室の指導業務に従事した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第2号に該当すると解してよいか。ただこの場合、昼間の本校における業務は除外すべきものとするがどうか。また、逆に昼間だけ移動教室の指導業務に従事し、夜間は自宅に帰っている教員の業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第2号に該当しないと解するがどうか。</p>	<p>1. 校内で実施されるものは、原則的には該当しないと解されるが、当該行事が校外で実施される林間学校等と同様の態様で実施されるものは、例外的に該当するものとして取り扱うことができる。同様の態様で実施されるとは、平素と異なった環境の下で規律ある集団生活を営むことにより、公衆道德等に望ましい体験を積みうるような形態で行われることをいうものである。</p> <p>2. 貴見のとおりと解する。</p>

質 問	回 答
3. 農業高等学校において、修学旅行に代わる農場等の見学等における生徒の引率指導業務（泊を伴うもの）に従事した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第2号に該当するか。また、工業高等学校において修学旅行に代えて工場等の施設見学等に生徒を泊を伴って引率した場合はどうか。	3. 学校教育活動の中において修学旅行、林間・臨海学校等又はこれらに類する行事として位置づけられて実施された場合は該当する。
4. 学校で計画し実施する学習合宿（泊を伴うもの）に参加生徒を募集し引率した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第2号に該当するか。	4. 修学旅行等引率業務は原則として学級以上の児童又は生徒の参加を前提としており、ただ単に参加希望者を募集したものについては該当しない。 ただし、進学クラスがありその学級全体の参加を前提としたものについては該当する。

### 3 特殊勤務手当条例第26条第1項第3号（対外運動競技等引率）

質 問	回 答
1. 自校の校庭を会場として開催された対外運動競技会の引率指導業務も特殊勤務手当条例第26条第1項第3号の業務に含めて取扱って差し支えないか。	1. 貴見のとおりと解する。
2. 「対外運動競技等において児童又は生徒を引率して行う指導業務」の従事時間は、学校に集合して出発し、競技会等の終了後帰校して解散した場合、その出発から解散までの時間をいうものと解するがどうか。	2. 貴見のとおりと解する。
3. 高体連主催の陸上記録会や〇〇競技練成会へ生徒引率した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。	3. 陸上記録会のような単なる記録をとるための大会や練成会のような技術の向上を目的とした競技性のない大会等は該当しない。
4. 高体連専門部の主催大会へ生徒を引率した場合、当該業務は、特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。	4. 該当しない。 ただし、高体連専門部の主催であっても、高体連〇〇支部の共催又は上位大会（総体県大会等）の予選であることが、開催要項等に明示されている場合は該当する。
5. 高体連に試合等登録している場合で、試合が行われていない日に競技補助を依頼され生徒引率をした場合、時間要件等を満たしていれば、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。 また、学校全体で大会運営の補助にあたった場合は、学校教育活動として実施されたものとみなして手当を支給してよいか。	5. 大会等の参加とは、原則として自校の参加及びその応援を前提としており、競技補助や試合観戦については、その実態から部活動として取り扱うべきである。 後段については貴見のとおりと解する。

質 問	回 答
<p>6. 試合が午前中に終了し、引き続き試合観戦をした後解散した場合、時間要件を満たしていれば当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。</p> <p>また、一時解散後集合し、試合を観戦した場合はどうか。</p>	<p>6. 明らかに引率業務を終了した場合や中断した場合を除き、一連のものと取り扱って差し支えない。</p> <p>後段については、解散した時点で引率業務が終了しているので、その部分は対外運動競技等生徒引率業務の手当対象にはならない。</p> <p>ただし、引率業務にはならないが、従事時間が引き続き3時間以上である場合には、部活動指導手当として支給することができる。</p>
<p>7. 全国高校総体に出場する生徒を引率するにあたり、コンディションを整えるため、現地での試合前の練習も含め、4泊5日で生徒引率した場合、全日程に対して当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当させることができるか。</p> <p>1日目（月）午前8時集合 出発→現地19時到着  2日目（火）午前6時起床 練習→14時開会式  3日目（水）午前6時起床 試合  4日目（木）午前6時起床 試合  5日目（金）午前6時起床 試合→出発→学校17時到着</p>	<p>7. 対外運動競技等引率業務は、出発から帰校までを従事時間としている。</p> <p>設問のように、試合前に早めに現地入りしてコンディションを整えることは大会と切り離すことはできないことから、1日目から手当支給対象業務としてよい。</p>
<p>8. 市教育委員会主催の中学生弁論大会に視聴者として参加する管下の中学校の生徒を引率した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。</p>	<p>8. 当該参加が学校教育活動として実施される場合は該当する。</p>
<p>9. 県高等学校農業クラブ連盟主催の農業クラブの研究発表大会に生徒を引率した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。</p>	<p>9. 該当する。</p>
<p>10. 全国高等学校体育連盟主催の運動競技会に応援団として参加する生徒を引率した場合、当該業務は特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に該当するか。</p>	<p>10. 当該参加が学校教育活動として実施された場合は該当する。</p>
<p>11. 全国中学校体育連盟等主催の運動競技会が雨天順延となって宿舎で待機した場合、当該待機中の時間も引率指導業務に従事した時間に含まれるか。</p>	<p>11. 含まれる。</p>
<p>12. 競技会等への参加が学校により計画され、実施されるものとはなにか。</p>	<p>12. 学校の年間計画（「部活動での指導ガイドライン」に基づいて作成された活動計画を含む）に組み込まれている、若しくは学校としての参加計画が作成されていて、学校教育活動として参加するものである。</p>

#### 4 特殊勤務手当条例第26条第1項第4号（部活動指導）

質 問	回 答
<p>（「引き続き3時間程度」の中に休憩，昼食，集合時間等が含まれる場合）</p> <p>1. 規則7－2第23条第1項第4号によれば，部活動手当に係る指導業務については，「正規の勤務時間以外の時間等において業務に従事した時間が引き続き3時間程度」と規定されているが，この業務に従事した時間の取扱いは，次のように取り扱って差し支えないか。</p> <p>（1） 部活動が行われている途中において，休息，昼食等のため一時的に指導業務が中断した時間があっても，事実上引き続いてしていると認められる場合は，当該中断時間も業務に従事した時間として取扱うことができる。</p> <p>（2） 練習試合等のため，児童又は生徒が学校に集合し，試合等の終了後帰校して解散したような場合においては，出発から試合等の開始までの時間及び試合等の終了後解散までの時間も業務に従事した時間として取り扱うことができる。</p> <p>（正規の勤務時間以外の時間等）</p> <p>2. 規則7－2第23条第1項第4号の「正規の勤務時間以外の時間等」には，週休日（学校職員の勤務時間，休暇等に関する条例第4条，第5条及び第7条の2第2項）又は休日及び休日の代休日（学校職員の勤務時間，休暇等に関する条例第9条，第10条第1項）若しくは国又は県の行事の行われる日で，人事委員会規則で定める日における正規の勤務時間が割り振られている時間を含むが，夏季休業の期間その他で単に児童又は生徒に対する授業等を休業している日における正規の勤務時間が割り振られている時間までを含むものではないと解するがどうか。</p> <p>3. 規則7－2第23条第8項によれば，部活動手当に係る指導業務には「部活動の一部として行われる競技会等において児童又は生徒を引率して行う指導業務（同項第3号に規定する業務を除く。）を含む。」と規定されているが，ここにいう「同項第3号に規定する業務」とは，特殊勤務手当条例第26条第1項第3号に定める要件に該当し，手当が支給される業務をいうものと解して差し支えないか。従って，同号にいう対外運動競技等であっても，7時間45分程度に及ばないもので，それが部活動の一環として行われるものに係る指導業務は，部活動手当に係る指導業務として取り扱うことができると解するがどうか。</p>	<p>1. 貴見のとおり取り扱っても差し支えないものと解する。</p> <p>なお，（2）については，雨天のため練習試合等が中断，順延となり，会場等で待機した場合における当該待機の時間も含めて取り扱っても差し支えない。</p> <p>（注）1. 「3時間程度」とは，3時間以上である場合をいう。</p> <p>2. 「事実上引き続いてしていると認められる場合」とは，休憩・昼食等により中断があった場合にあって，速やかに部活動の指導業務を継続して行える状況にある場合をいう。</p> <p>3. 生徒の登下校の時間は，指導業務の従事時間には含まれない。</p> <p>2. 貴見のとおりと解する。</p> <p>（注）夏季休業等の期間中に，部活動指導業務を行った場合は，手当は支給できない。</p> <p>但し，週休日，休日等については支給される。</p> <p>3. 貴見のとおりと解する。</p> <p>（注）部活動の指導を担当することとされている教員が，対外運動競技等（生徒を引率する場合の指導業務）で3時間程度から7時間45分程度以内の業務を行った場合については，部活動指導手当として支給される。</p>

質 問	回 答
4. 正規の勤務日の勤務時間外に行う指導業務（合宿等）が、3時間以上引き続いた場合は手当を支給できるか。	4. 支給できない。

## 6. その他

質 問	回 答
1. 規則7-2第23条第1項第1号イの「日中7時間45分程度」とは、1日の同一業務に要する延べ従事時間と解するがどうか。	1. 貴見のとおりと解する。
2. 夜間、非常災害時の業務等に従事した場合、その間に仮眠した時間は業務従事時間に含まれないと解するがどうか。	2. 貴見のとおりと解する。
3. 人事委員会規則7-2（特殊勤務手当）の運用について規則第23条関係に「就寝時間等は含まない。」とあるが「等」とはなにか。	3. たとえば、児童・生徒の就寝後等で児童・生徒の指導業務に従事しない時間をいうものである。
4. 修学旅行における児童の引率指導業務に従事中、児童が負傷したため、その児童の救急業務に従事した場合のように、1日において特殊勤務手当条例第26条第1項各号に掲げる2種類以上の業務に従事した場合で、教員特殊業務手当について2以上の支給要件に該当する場合は、該当する各号の支給額の合計額を支給できるか。	4. それらの業務のうち、主として行った一の業務にかかる手当を支給する。
5. 土曜日の午後1時から午後3時まで負傷した児童の救急業務に従事し、同日の午後6時から午後11時まで学校の火災の防火業務に従事した場合これらの業務の従事時間を通算して特殊勤務手当条例第26条第1項第1号イ又はロのいずれかの業務に従事したとみなして、教員特殊業務手当を支給できるか。	5. 支給できない。
6. 教員が宿日直勤務中火災が発生し、その防災業務に従事した場合、又は寄宿舎の舎監若しくは寄宿舎指導員等が宿日直勤務中に児童・生徒の疾病に伴う救急業務に従事した場合等で、当該防災業務又は救急業務が特殊勤務手当条例第26条第1項第1号に該当するときは、宿日直手当に併せて教員特殊業務手当を支給することができると解するがどうか。この場合、防災業務又は緊急業務に従事した時間は宿日直勤務の従事時間から除くべきものと解するがどうか。	6. 貴見のとおりと解する。

質 問	回 答
<p>7. 教員特殊業務手当台帳兼支給整理簿について、パソコンにより記入して作成してもよいか。</p>	<p>7. 教員特殊業務手当台帳兼支給整理簿の取扱いについては、事前申請又は事前届出を必要とし、従事後、従事確認をする内容となっている。そのため当月分を一括で申請又は届出する場合のみ事前申請（届出）欄まではパソコンでの記入が認められるが、従事確認欄以降は手書きになることが当然である。</p>



## 【参考資料Ⅱ】

### ○非常災害緊急業務支給チェックリスト

各所属長は次の項目を確認した上で、手当支給について判断すること。

<input type="checkbox"/>	従事者は、あらかじめ配備計画で指定された者か。指定されていない者の場合は、出勤を命じなければならない合理的な理由があったか。
<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>	報告者全員について、業務毎の従事時間が明らかになっているか。 従事時間に待機時間が含まれていないか。 ⇒ 避難所の開設準備については、避難所の運営までを含むものではないことに注意すること。
<input type="checkbox"/>	従事内容が、 <u>非常災害における児童若しくは生徒の保護又は緊急の防災若しくは復旧の業務であるか。</u> ⇒ 具体的に何の業務に従事したのか確認すること。
<input type="checkbox"/>	被害状況及び規模に対する従事人数は適正か。
<input type="checkbox"/>	市町村における防災業務と混同していないか。 ⇒ 東日本大震災において、避難所運営業務を教員特殊業務手当の対象としたのは特例措置であるので、すべてのケースについて認められるものではないことに注意すること。

## 【参考資料Ⅲ】

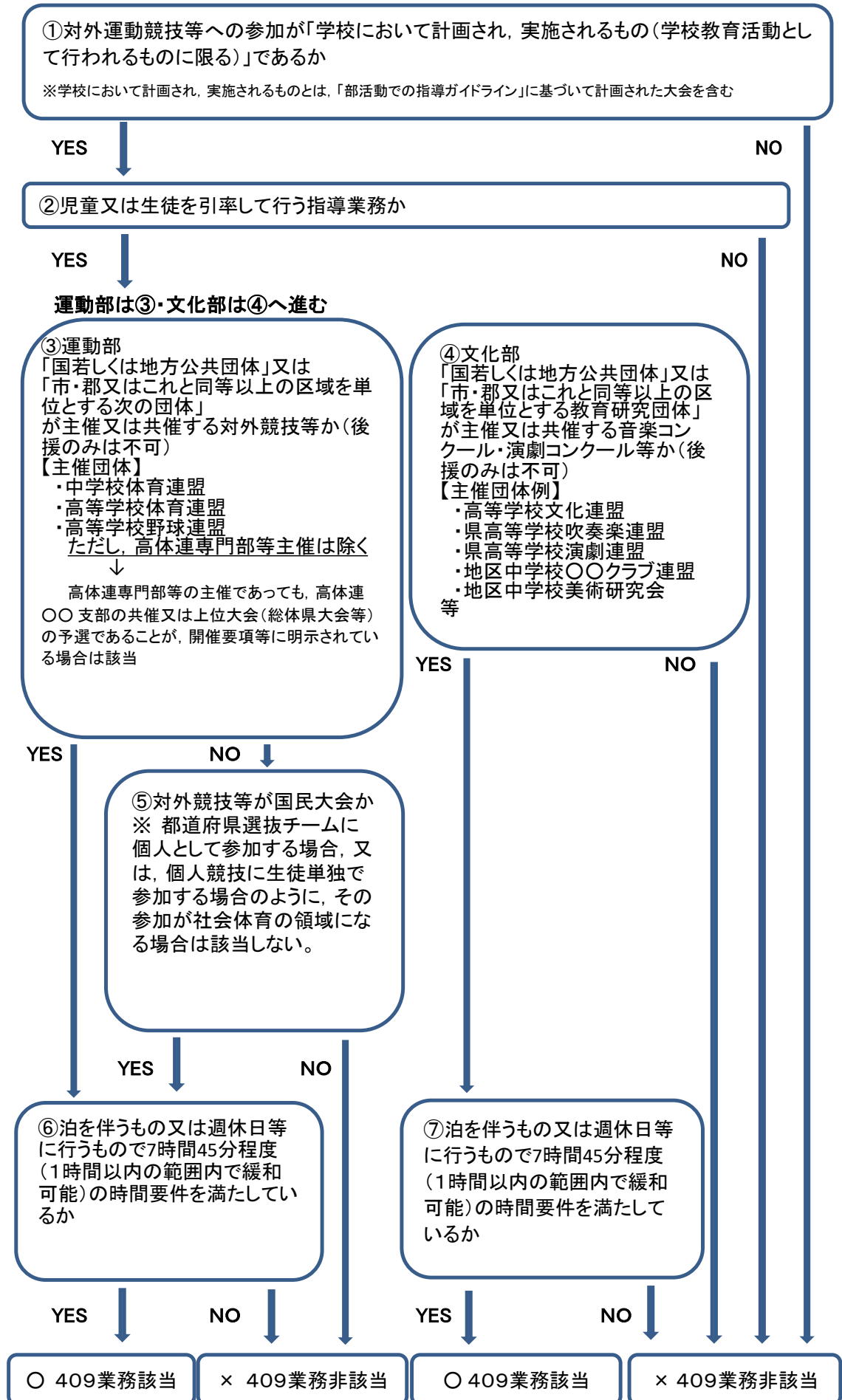
### ○対外運動競技等引率業務（４０９業務）支給可否表

種別	勤務日（出張）		週休日等	
	従事時間	４０９業務 支給可否	従事時間	４０９業務 支給可否
泊なし	7時間45分程度	×	7時間45分程度	○
泊あり	7時間45分程度	○	7時間45分程度	○

※ 勤務日の出張の場合は宿泊を必要とする。

## 【参考資料Ⅳ】

### ○人事委員会規則で定める対外運動競技等引率指導業務(409業務)判断フローチャート



## 【参考資料Ⅴ】

### ○特殊勤務手当コード表

手 当 区 分		支給額	コード
教員特殊業務手当	非 常 災 害	日 額 8,000円	4 0 8
	対外運動競技等の引率指導	日 額 5,100円	4 0 9
	修学旅行等の引率指導（宿泊）	日 額 5,100円	4 1 0
	非 常 災 害（加算込）	日 額 16,000円	4 1 2
	救 急 業 務	日 額 7,500円	4 1 6
	補 導 業 務	日 額 7,500円	4 1 7
	部 活 指 導（3時間程度）	日 額 2,700円	4 1 9
教育業務連絡指導手当		日 額 200円	4 2 1

### ○支出科目コード

予算主務課	支出科目	予算種別
5 2 1 5 0 0	0 1 - 1 0 - 0 2 - 0 1	小学校費
5 2 1 5 0 0	0 1 - 1 0 - 0 3 - 0 1	中学校費
5 2 1 5 0 0	0 1 - 1 0 - 0 4 - 0 1	高等学校費
5 2 1 5 0 0	0 1 - 1 0 - 0 7 - 0 1	特別支援学校費

※ 例月報告の際は支出科目の誤りに注意すること。